



連携事業を始めた 4 球団の選手 ( 所 沢 市 で )

# 野球・ソフト普及へ連携

## 県内 4 球団 園児らと交流など

県内に本拠地を置くプロ野球とソフトボールの 4 球団が 20 日、所沢市で記者会見を行い、野球、ソフトボールを子どもたちに普及させるため、連携して取り組むことを発表した。

参加するのは、西武ライオンズと、埼玉アストライア ( 女子リーグ )、武蔵ヒートベアーズ ( BCリーグ )、戸田中央総合病院メ

デイクス ( 日本女子ソフトボールリーグ ) の 4 球団。競技人口減が課題となっている野球とソフトボールに、子どもたちが接する機会を増やすことを目的とした「PLAY BALL! 埼玉」プロジェクトと名づけた事業を展開する。

事業では、各球団の選手が幼稚園や保育園を訪問して、ゴム製の軟らかいボールを使ったレクリエーションを行うほか、4 球団合同のイベントも開催する。最初の合同イベントは 6 月 18 日に和光市で開く予定。

ライオンズの炭谷銀仁朗選手は記者会見で、「公園で野球をしたり、路地で壁

にボールを投げたりする子どもを見かけなくなっている。僕らが子どもたちに投げ方などを教えることで、少しでも野球に興味を持ってもらいたい」と意気込みを語った。

# 県内 4 球団「PLAY BALL! 埼玉」

県内に拠点を置く野球・ソフトボールの 4 球団が 20 日、所沢市のメットライフドームで記者会見し、連携して魅力を発信する「PLAY BALL! 埼玉」プロジェクトを発足させたと発表した。

小学生以下の子供を対象に、気軽にプレーできる柔らかいボールを使ったキャッチボールなどの指導や交流を通じて、競技の魅力を伝えていく。

参加したのはプロ野球・西武ライオンズ、女子プロ野球・埼玉アストライア、独立リーグ・武蔵ヒートベアーズ、ソフトボールの戸田中央総合病院メデイクスの 4 球団。

会見でライオンズ選手会長の炭谷銀仁朗捕手は「ファンの子供からもらった手紙に『公園で野球が禁止されてい

る』と書いてあった。野球の競技人口も減っているのだから、何とかしなければ

と思った」と語った。



「気軽に野球をできる環境がない」との手紙が埼玉西武ライオンズに届いたのが発足のきっかけ。事務局によると、全国で野球をする小中学生は 2016 年推計で約 49 万人。6 年前に比べ約 16 万人も減った。

【清藤大】

## 雑記帳

◇減少する野球人口の回復を目指すし、埼玉県内のプロ野球とソフトボール女子の 4 チームが 20 日、「PLAY BALL! 埼玉」プロジェクトを発足させた。共通プログラムで「埼玉モデル」を広める。

◇「気軽に野球をできる環境がない」との手紙が埼玉西武ライオンズに届いたのが発足のきっかけ。事務局によると、全国で野球をする小中学生は 2016 年推計で約 49 万人。6 年前に比べ約 16 万人も減った。

日本体育協会などによると、全国の野球人口は平成 22 年の小学生 31 万人 6 千人、中学生 34 万 3 千人から、それぞれ 5 万 8 千人、10 万 6 千人減少したという。体力テストのソフトボール投げも、ピークだった 30 年前と比べて男子で 6 割、女子で 4 割低下。昨年度は県の小 5 男子が同種目で全国最下位になった。

アストライアの川端友紀内野手は「埼玉から野球を盛り上げ、楽しさを一人でも多くの方に伝え、次代の選手育成に貢献したい」と意気込んだ。

「PLAY BALL! 埼玉」プロジェクト発足を PR する県内 4 球団の選手

20 日、所沢市上山口